

未知の時代をリードする人財を養成 2022年「新しい理工学部」誕生

成蹊大学／理工学部

Seikei University

予測不能な未来に向けて、

進化する成蹊大学

情報社会の次の段階として定義されている未来社会のコンセプトは

Society 5.0。IoTやロボット、人工知能(AI)など先端技術の浸透によつて、社会のあり方が大きく変わ

りつつある。企業においてはデジタル技術とデータを活用し、消費者や社会ニーズに基づいたビジネスモデルの変革が急速に進展しており、今や、

特定分野に限られた能力のみでは、社会の複雑な課題を解決へと導くのは難しいといえる。

成蹊大学では、未来社会で求められる人材の資質を、「高度なICT活用力と専門の垣根を越えた発想により、課題解決に向けて自分のビジョンを提示し、新たな価値を創造

できる人財」としている。

Society 5.0の到来を見据え、早期から教育改革を進めてきた同大学は、2020年4月に「成蹊ブリリアント2020」をスタート。経済学部を改組し新たに経営学部を設置し、経済学部、経営学部、法学部、文学部、理工学部の全5学部でより高

度な専門性を持つた人材の育成へと舵を切つた。

このほか、もう一つの専門性を修得するための「副専攻制度」を設置。自分の興味関心に沿つた「学びのデザイン」をかなえる制度で、経済学部の1学科に改組し、学問分野を明確にした5つの専攻、「データ

数理専攻」「コンピュータ科学専攻」「機械システム専攻」「電気電子専攻」「応用化学専攻」を設置。「専門性×融合分野」「専門性×ICT」「専門性×コラボレーション」の3つの資質を備えた「新しい理系」を養成する

ため、独自の学びを展開していく。

学生は所属している専攻で深い

の学生がワンキヤンパスに通う強み

を活かし、伝統を継承しながらさらなる教育の充実を図つている。※2 022年4月からは18領域となる。

理工学部は1学科5専攻へ 「新しい理系」を育む学び



(左上)すべての専攻でICTを必修化。コンピュータの基礎、プログラミングなどを学ぶことで、変化し続ける社会にも役立つICT活用力を身につける。(右上)体験型授業を通して座学で得た知識の定着化を図るだけでなく、状況変化に対応する力や柔軟な発想力を養う。(左)2024年秋完成予定の新棟。文理融合の様々なアクティビティを可能にし、創造性を育むことに適した環境を整備する。最先端の研究環境や情報教育設備などを備えた、新しい理工学部の教育・研究拠点となる(画像提供:株式会社竹中工務店。計画は現段階のものであり、変更となる可能性があります)。



教育改革が進む成蹊大学。2022年4月、理工学部が1学科5専攻に生まれ変わる。変化に満ちた未来に対応するため、未知の社会課題を果敢に乗り越えていく「新しい理系」を養成する。

取材・文／福島寿恵



専門知識を修得し、専攻の垣根を越えた融合分野の科目により学びの幅を広げる。また、ICT教育をすべての専攻で必修化し、プログラミングやデータサイエンスといった実社会で通用するICT活用力を身につける。「科学技術が加速度的に進歩し、社会に与えるインパクトは非常に大きくなっています。誰でも利用しやすくなっているからこそ、人間がその技術をどう利活用するか問われる時代に突入します。学生の皆さんには、科学技術の進歩が社会にどう影響するのかをきちんと考えられる社会人になつてほしいと思います。そのためには、理系の専門知識でどう活かせるかを考えられる人になる必要があります」と、理工学部長の小池教授は語る。

協働で課題に取り組み、新しい価値を見出す

新しい理工学部では、専攻を越えたグループワーク型の科目や授業を数多く用意している。社会での実践力を鍛える「連携プロジェクト」科目では学生同士が協働し、企業や地域における課題を発見してチームで

Information

成蹊大学



1912年に創立された成蹊実務学校が源流。成蹊実務学校は教育者中村春二により創立され、後の1925年に創設された旧制高等学校が戦後の学制改革で現在の成蹊大学となり、高等教育機関としての姿を確立。「少人数制による個性尊重の人間教育」の伝統は、総合大学となった現在もゼミ・研究室での学びを中心とした教職員と学生の距離の近さという特徴と、旧制高等学校のリベラルな学風とともに受け継がれている。

●DATA

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
 TEL 0422-37-3533 (アドミッションセンター)
[URL https://www.seikei.ac.jp/university/](https://www.seikei.ac.jp/university/)

専門知識を修得し、専攻の垣根を越えた融合分野の科目により学びの幅を広げる。また、ICT教育をすべての専攻で必修化し、プログラミングやデータサイエンスといった実社会で通用するICT活用力を身につける。「科学技術が加速度的に進歩し、社会に与えるインパクトは非常に大きくなっています。誰でも利用しやすくなっているからこそ、人間がその技術をどう利活用するか問われる時代に突入します。学生の皆さんには、科学技術の進歩が社会にどう影響するのかをきちんと考えられる社会人になつてほしいと思います。そのためには、理系の専門知識でどう活かせるかを考えられる人になる必要があります」と、理工学部長の小池教授は語る。

これらを整えた背景について、小池学部長はこう語る。「専攻の垣根を越したいわゆる『縦割り型』ではない学びの形により、異なる専門分野の人が集まると、 $1+1$ が 3 にも 4 になります。シナジーが生まれます。新たな理工学部では他者から得られた気づきや発見を学びへと昇華します」。



理工学部
学部長
小池 淳 教授

東北大学大学院工学研究科修了。成蹊大学副学長を経て、理工学部長に就任。博士(情報学)。



特色ある授業や実践的プログラムを通して個々の専門性を確立する高いテーマについて重点的に学ぶ「特別プログラム」も設置する。経営科、生命科学、教育手法といったプログラムからなり、他専攻の学生との連携やデータサイエンスといった実社会で通用するICT活用力を身につける。「科学技術が加速度的に進歩し、社会に与えるインパクトは非常に大きくなっています。誰でも利用しやすくなっているからこそ、人間がその技術をどう利活用するか問われる時代に突入します。学生の皆さんには、科学技術の進歩が社会にどう影響するのかをきちんと考えられる社会人になつてほしいと思います。そのためには、理系の専門知識でどう活かせるかを考えられる人になる必要があります」と、理工学部長の小池教授は語る。

特色ある授業や実践的プログラムを通して個々の専門性を確立する高いテーマについて重点的に学ぶ「特別プログラム」も設置する。経営科、生命科学、教育手法といったプログラムからなり、他専攻の学生との連携やデータサイエンスといった実社会で通用するICT活用力を身につける。「科学技術が加速度的に進歩し、社会に与えるインパクトは非常に大きくなっています。誰でも利用しやすくなっているからこそ、人間がその技術をどう利活用するか問われる時代に突入します。学生の皆さんには、科学技術の進歩が社会にどう影響するのかをきちんと考えられる社会人になつてほしいと思います。そのためには、理系の専門知識でどう活かせるかを考えられる人になる必要があります」と、理工学部長の小池教授は語る。

特色ある授業や実践的プログラムを通して個々の専門性を確立する高いテーマについて重点的に学ぶ「特別プログラム」も設置する。経営科、生命科学、教育手法といったプログラムからなり、他専攻の学生との連携やデータサイエンスといった実社会で通用するICT活用力を身につける。「科学技術が加速度的に進歩し、社会に与えるインパクトは非常に大きくなっています。誰でも利用しやすくなっているからこそ、人間がその技術をどう利活用するか問われる時代に突入します。学生の皆さんには、科学技術の進歩が社会にどう影響するのかをきちんと考えられる社会人になつてほしいと思います。そのためには、理系の専門知識でどう活かせるかを考えられる人になる必要があります」と、理工学部長の小池教授は語る。